

職員研修

看取りケアの方法 (亡くなる方の状態見極め)

日時 : 令和 6 年 2 月 13 日 火 曜日 18 : 00 ~ 19 : 00

記録者 : 樋口

☆ぽっぽクリニック医院長 赤羽先生を講師に亡くなる方はどのような状態になっていくのかそして看取りケアについて職員研修を行いました。場所はぽっぽクリニックをお借りして行いました。



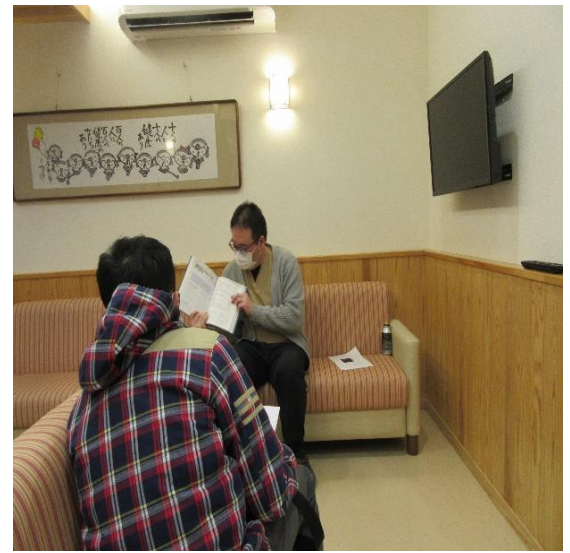
○亡くなる前には段階があります。まずは体の変化について話していきます。

まずは徐々に食事が食べられなくなる。そして寝ている時間が増えてくる。その時点で主治医家族に伝えてほしい。主治医に伝えることにより医療面で対応でき、家族に伝えることにより徐々に死期が近づいていること、親の死を受け入れる時間を早めに知ってもらうことはとても重要である。

次に混乱やせん妄がみられる。寝てる時間は本当に寝てはいない状態で意識障害起こしている急に目が覚め幻覚、妄想が出てくることが増え意味不明な発言が出てくる。(純粋に認知症がある方はせん妄などあるため見極めは難しい) 心臓の動きが悪くなり血圧も下がってくる。

収縮期血圧(上の血圧)が80mmHg以下になると生命活動が難しくなる。食事が食べれない、寝ていることが増え収縮期血圧(上の血圧)が80mmHg以下になったら即座に危ない状態である。

(死の前) 血圧が低いと全身に血液が行き届かなくなり一番影響を受ける臓器として腎臓です。腎臓で血液をろ過する臓器であるが十分血液が腎臓にいきわたらないと血液がろ過できず尿の量が減っていく。先ほど伝えた収縮期血圧(上の血圧)が80mmHg以下で尿量が減ってきたら更に死が近づいている状態である。発熱がおきることもある。その場合肺炎を起こしていることが多い。そして呼吸も浅くなっていく。大きい呼吸や無呼吸の状態が続く場合はもちろん異常な状態である。それが続いていくと下顎呼吸になり亡くなる直前の呼吸。すぐに医師や家族を呼ぶこと。



①食事が徐々に減っていく。

②寝ている時間が増えていく。

この時点でまずは主治医に報告をする。主治医から家族の方へ状態を説明することとなる。

かなり悪い状態で家族が面会等で本人を見た時驚いてしまうため早めに医師に伝え医師から家族へ状況を伝えることにより家族も心構えができる。

③血圧が下がってくる。収縮期血圧（上の血圧）80mmHg以下は生命にかかわってくる。

収縮期血圧（上の血圧）60mmHg以下は極めて死に近づいている。すぐに医師を呼ぶように。

また機械式の血圧計で測ってもよい。収縮期血圧（上の血圧）80以下だとエラーとでるのでその時は収縮期血圧（上の血圧）80mmHg以下と思い医師に報告すること。

④尿の量が減る。

⑤発熱（肺炎を起こしていることが多い）

⑥呼吸が乱れる。無呼吸、大きな呼吸になる。

最後は下顎呼吸になりそのままお亡くなりになる。その前に家族を呼び一緒に過ごしてもらうことが本人、家族にとって大切である。呼吸が止まったら医師が確認し死亡宣告をする。

①～⑥のことを行っていくことで主治医も状態が分かり家族に報告しやすい。そして最後穏やかに迎えることができるので今回お話したことを実践で生かしてしてほしい。

☆約1時間の先生のお話でした。

どのような形で死に近づいているか分かりやすく説明していただき、我々かをるの職員とてためになりました。この研修で学んだことを今後生かしていきたいと思います。



☆講師 1名

参加者 7名（介護士6名 看護師1名）

計8名

別紙参照。

1. お身体の変化について

① 食事

食欲が少しずつなくなり、食べ物をあまり口にしなくなってきました。これは、身体が栄養を吸収しなくなっているからなのです。むせたりする事も出てくるでしょう。むせると、気管に入ってしまうこともあるので、そのような時は、無理に食べさせたり飲ませたりせず、ご本人のご希望があれば小さな氷を口に含ませてあげたり、ガーゼなどを水に浸して口を拭いてあげたりしてください。

② 身体の動き

徐々に立ち上がりや起きる事さえも難しくなってきます。眠っている時間が少しずつ長くなってきます。身の置き場のないだるさがあったり、落ち着かなくなったりすることがあります。いらいらしてご家族にあたったりすることもあると思います。時にはお客様には笑顔でも、身内の方にはつらい顔をお見せになることもあるでしょう。

ご家族は戸惑うこともあると思いますが、落ち着いて背中や手足をさすったり手を握ったり、今までどおり傍らにいて安心させてあげてください。

③ 混乱やせん妄

急につらい症状が強くなり、混乱する事もあります。会話が出来なくなったり、家族の事がわからなくなってしまうたり、時には人が変わってしまったかのように暴れたり、怒鳴ったりすることもあります。夜眠れなくなり、昼間にウトウトして時間の感覚がわからなくなってしまうこともあります。これらはご病気のせいですから、温かく見守ってあげてください。医師に相談するのもよいでしょう。

④ 排尿

尿の回数や量がだんだん減ってきます。色も濃くなってきます。

⑤ 発熱

お熱が急に出たり、脈拍や呼吸が速くなることがあります。循環が悪くなると手足が冷たくなりますので、声をかけながらゆっくり優しくさすってあげてください。

⑥ 呼吸

眠っている間に10-30秒くらいの間、呼吸が止まる事があります。痰の量が増えて喉の奥でゼロゼロという音がします。身体の向きを変えたり、お口の中を綿棒やガーゼで拭き取ってあげて下さい。息をするたびに苦しそうな声が出る事があります。苦しそうに見えますが、苦しいと感じる機能が低下していますので、ご本人は苦しいと感じていません。お辛いですが、見守って差し上げて下さい。

⑦ お別れが近づいた知らせ

肩や顎を動かして息をするようになり、尿がまったく出なくなります。これらは、本当にお別れが近づいていることを示します。ご本人は、眼を閉じていると思いますが、聴覚は、最後までであるといわれています。手を握ったり、声をかけてあげてください。ご本人の安心につながります。

2. 家族での看取り

・・・呼吸がとまったら・・・

- ①声をかけ、体に触れても動かなくなります。時間を確認してください。
- ②慌てず、ご本人様とお別れをしてください。それから医師または、訪問看護師にご連絡下さい。医師と時間調整し訪問いたします。ご近所・知人に連絡するのは、医師の確認が済んでからがよいでしょう。
- ③ 夜間など死亡確認が遅れることもありますが、法的な問題はありませんので、ご本人様のそばについてあげてください。
- ④ 死亡確認後、ご遺体のケアをさせていただきます。

・・・ご遺体のケア・・・

体の中にたまった分泌物や排泄物を出したり、お身体をきれいに拭いたり、散髪や洗髪をします。また、ご家族様のご希望があれば、ご一緒にケアをさせていただきます。最期に着ていただくものをあらかじめご用意下さい。

ご準備いただくもの

- ・ 浴衣やパジャマなど（着せたいものがあれば洋服でも結構です）
- ・ 下着（寒がりだった方には、ズボン下などもご用意ください）
- ・ 紙おむつ
- ・ お身体を拭くためのタオル（浴用タオル3、4本）
- ・ ごみ袋

